

こんな本があります
渋谷の橋と川の本

分類	資料名	編著者	出版者	出版年
S13	渋谷の橋	渋谷区教育委員会	渋谷区教育委員会	1996
S13	「春の小川」はなぜ消えたか 渋谷川にみる都市河川の歴史	田原 光泰	之 潮	2011
S13	「春の小川」の流れた街・渋谷特別展図録	白根記念渋谷区郷土博物館・文学館	白根記念渋谷区郷土博物館・文学館	2008
S13	あるく渋谷川入門 姿を隠した都会の川を探す	梶山 公子	中央公論事業出版(発売)	2010
S13	川跡からたどる江戸・東京案内	菅原 健二	洋泉社	2011
S13	渋谷の湧水池	渋谷区教育委員会	渋谷区教育委員会	1996
S13	渋谷の水車業史	渋谷区立白根記念郷土文化館	渋谷区教育委員会	1986
S13	渋谷川の水車と玉川上水	渋谷区教育センター	渋谷区教育センター	1989
S13	郷土渋谷の百年百話	加藤 一郎	渋谷郷土研究会	1967
S13	東京ぶらり暗渠探検		洋泉社	2010
S13	地形を楽しむ東京「暗渠」散歩	本田 創	洋泉社	2012
S13	新編武蔵風土記稿 第1巻(大日本地誌大系)		雄山閣	1970
S12	東京府豊多摩郡誌 復刻版	東京府豊多摩郡役所	名著出版	1978

※ 参考文献『渋谷の橋』渋谷区教育委員会 1996

しぶや、あの日 あんなこと そして こんな本

— 渋谷区地域資料通信 2 —

2018年11月1日
 編集/発行 渋谷区立中央図書館 (株)図書館流通センター
 渋谷区神宮前 1-4-1 3403-2591
 図書館ホームページ>しぶやのページ
https://www.lib.city.shibuya.tokyo.jp/?page_id=209

しぶや あの日 あんなことそして こんな本

渋谷区地域資料通信 2

神宮前に橋などないと思われるかもしれませんが、川の姿が見えなくなった今でも橋として管理されているものは区内に 99 箇所*あります。神宮前地区の中央には、かつて穂田川と呼ばれた渋谷川が表参道と直角に交わる形で北から南方向へと流れ、古から生活道路の一部としての橋が架けられていました。江戸時代の文政9年(1826)に著わされた『新編武蔵風土記稿』によれば、穂田村には長さ6間の板橋が、また原宿村には長さ6尺の石橋と水車橋とよばれる長さ4間余りの板橋が架けられていたことが記されています。さらに大正期の『東京府豊多摩郡誌』によれば、北から千原橋・原宿橋・石田橋・穂原橋・穂田橋があったことがわかります。しかし昭和39年(1964)の東京オリンピック開催頃までに渋谷川上流部は下水道千駄ヶ谷幹線として暗渠化され、橋としての姿も消えてゆきました。その頃まであった橋は前記に加え、巖橋・参道橋・堺橋・鶴田橋・寿老橋・八千代橋・なかよし橋などです。今では暗渠化された上部はキャットストリートや裏原宿と呼ばれる遊歩道になっており、その筋に沿って歩いてみると、川があった頃に架かっていた橋の親柱を見つけることができます。そんな親柱を巡りながら神宮前の橋のいくつかと、切通しになっているJR線の上を跨ぐ橋をご紹介します。

神宮前 橋めぐり

*:『区勢概要 平成29年版』



宮下橋

明治通りから神宮前六丁目へと向かう遊歩道の入り口にあたる場所にあったのが宮下橋です。古くはこの橋が上渋谷町裏にあったので、町裏橋と呼ばれました。昭和3年(1928)にこのあたりが宮下町と改正され、橋名も宮下橋になりました。宮下とは梨本宮邸の下に位置していたことからつけられました。

次の穩田橋までの間には、なかよし橋・八千代橋・寿老橋・鶴田橋がありました。なかよし橋は昭和28年に竣工した区内唯一のひらがな名の橋です。鶴田橋の南には明和6年(1769)ごろ忠左衛門という人が創業した水車がありました。この水車を明治20年代と思われるころ、鶴田平吉が経営し明治末年ころまで米を搗いていました。橋の名は所有者の鶴田氏に因んでいます。葛飾北斎の『隠田の水車』(富嶽三十六景)はこの水車でしょうか。



穩田橋

この辺りはかつて穩田村と呼ばれた場所です。今残る橋名板は昭和30年(1955)12月に架け替えられた時のものです。



参道橋

堺橋を挟んで、表参道に架かっていたのが参道橋。大正9年(1920)に明治神宮が鎮座した際に、神宮と青山通りとを結ぶ表参道が開通しました。その際に架けられたこの橋は参道橋と名付けられました。橋は昭和13年(1938)に一度架け替えられました。

次に親柱が残っている原宿橋までの間には、穩原橋と石田橋がありました。穩原橋は旧穩田と原宿との境界に架かっており、この橋を西に進むと明治通りを横切り、竹下通りを経て原宿駅の竹下口へと至ります。

原宿橋

明治通りから熊野神社へと向かう道に架けられていたのがこの橋で、南側に残る親柱は昭和9年(1934)5月に架け替えられた時のものです。

この先の神宮前地域には、穩田に住んでいた大山巖元帥が馬に乗ってしばしば渡っていたことから名付けられたという巖橋と旧千駄ヶ谷二丁目と原宿一丁目との境に架かっていたので名付けられた千原橋がありました。



JR 跨線橋

水無橋

明治18年(1885)に日本鉄道の品川・赤羽線(現在の山手線の前身)が開通した時、切り通しがここに作られました。青山六丁目から神宮前五丁目を横断し、神宮前六丁目まで明治通りを横切り、坂を登ってここに至る道路は江戸時代からあったもので、青山から代々木の原に達するただひとつの幹線道路でした。線路の上に架けられた陸橋としては、東京でも最も古い橋の一つです。現在の橋は平成になって架け替えられたものです。



神宮橋



大正9年(1920)に明治神宮が鎮座した際、現在のJR線を跨いで架けられました。当時、この橋の上部装飾は最も工夫して設計され、背の高い高欄部分に黒松を植え、橋詰には石燈籠をかたどった大きな親柱を建て、周辺の環境との調和がはかられました。昭和57年(1982)の架け替えの設計にあたっては、親柱などは旧橋のものを一部修理して復元し荘厳な姿を損なうことのないように配慮されました。

五輪橋

昭和39年(1964)の東京オリンピック開催に先駆けて、表参道から神宮橋の南側でJR線を越え代々木競技場・選手村を横切り山手通りに至る放射23号線が整備された際に架けられました。橋の欄干にはオリンピックを記念する競技のレリーフがはめ込まれています。



神宮前橋めぐり

◆神宮前の渋谷川◆
 神宮前地域を流れる渋谷川は穩田川とも呼ばれ、さらに上流は玉川上水の余り水を落とすことから余水川とも呼ばれた。昭和39年（1964）の東京オリンピックを契機に暗渠化され、旧渋谷川遊歩道やキャットストリートと呼ばれている。数多くあった橋の存在は人々の意識から薄れてしまったが、名残をとどめている場所もいくつかある。

飴屋橋（神宮前四丁目）
 明治神宮南池の湧水が渋谷川に合流する水路（現在は「プラームスの径」などと呼ばれる暗渠）に架かっていた橋。昭和5年に明治通りができる前、旧道に架かっていた小石橋で、明治32年（1999）に木橋を架け替えたもの。近くに飴屋があったのが橋名のおこりという。



神宮橋（神宮前6-35地先）
 明治神宮大鳥居へ通じる橋。大正9年（1920）に神宮が鎮座したとき鉄道線路をまたいで架けられた。当時、この橋の上部装飾は最も工夫して設計され、橋の下を煙を上げて走る列車を意識させないように背の高い高欄部分に黒松を植え、橋詰には石灯籠をかたどった大きな親柱を建て周辺の環境との調和がはかられた。その後、老朽化にともない車両の通行が禁止されたが、昭和54年に架け替えに着手し、親柱は旧橋のものを一部修理して復元し3年後に完成した。



五輪橋（神宮前6-35～代々木神園町）
 昭和39年（1964）のオリンピック開催に伴い、選手村・代々木競技場がある代々木エリアとメインスタジアムのある明治公園エリアを結ぶ放射23号線が山手線を跨ぐ形で架けられた。橋の側壁面にはオリンピックの競技にちなんだレリーフが施されている。

水無橋（神宮前6-34～神南2-1）
 明治18年（1885）に日本鉄道の品川・赤羽線（山手線の前身）が開通したとき、ここに切通が作られた。古老の話によるとこの辺りは土地が高く、渋谷方向から来る汽車が登れないというので、ここを切り通しにしてその上に橋を架けたという。鉄道線路上に架けたので水無橋と称した。青山六丁目から神宮前五丁目を横断し、神宮前六丁目で現在の明治通りを横切り、坂を上ってここに至る道路は江戸時代からあったもので、青山から代々木の原に達するただ一つの幹線道路だった。線路の上に架けられた陸橋としては、東京で最も古い橋の一つである戦前は市内の陸軍部隊がこの橋を渡って代々木練兵場に向かった。現在の橋は平成に架け替えられた。



宮下橋（渋谷1-26～渋谷1-23）
 古くはこの橋が上渋谷村町裏にあったので、町裏橋と呼ばれた。昭和3年、この辺りは宮下町と改称され、橋名も現称となった。宮下とは梨本宮邸の下に位置していたことによる。



千原橋（神宮前6-16～神宮前5-29）
 旧千駄ヶ谷二丁目と原宿一丁目との境界に架かっていたのでこの名が付けられた。昭和10年9月に架け替えられた。

巖橋（神宮前二丁目）
 古老によると、穩田に住んでいた大山巖元帥が馬に乗ってしばしばこの橋を渡ったことから名が付けられたという。穩原小学校と称する校名も、大山元帥が命名したものの。



原宿橋（神宮前3-29～神宮前2-18）
 明治通りから分かれ、熊野神社方面へ向かう道路に架けられた橋。昭和9年5月に架け替えられた。

石田橋（神宮前三丁目）
 原宿村の小字石田に架かっていたことから名付けられた。



穩原橋（神宮前三丁目～四丁目）
 旧穩田と原宿一丁目との境界に架かっていた橋。この橋を西に進むと、明治通りを横切り竹下通りを経て原宿駅に至る。

参道橋（神宮前6-1～神宮前4-25）
 大正9年（1920）に明治神宮が鎮座したとき、神宮橋と青山通りとを結ぶ参道にちなんで名付けられた。昭和13年10月に架け替えられた。



穩田橋（神宮前六丁目～五丁目）
 昭和30年12月に架け替えられた。

鶴田橋（神宮前六丁目～五丁目）
 この橋の南のほうに、明和6年（1769）ごろ忠左衛門というものが創業した水車が架かっていた。この水車を明治20年代と思われるころ、鶴田平吉が経営し、明治末年ごろまで米を搗いていた。橋名は所有者の鶴田氏にちなむ。

なかよし橋（神宮前六丁目～渋谷一丁目）
 「こどもの城」があった場所の西側の道を直進した地点に架かる橋。昭和28年3月に竣工した。区内で唯一のひらがな名の橋。



参考文献：『渋谷の橋』渋谷区教育委員会 1996